

【構成員】

1. 職員

教授 (所長) 笹山雄一 (sasayama@suzu2.suzu.or.jp)
 専攻 生物多様性学、比較内分泌学
 内容 九十九湾に生息する無脊椎動物の分類、
 形態、生理を研究するとともに、下等脊椎
 動物及び無脊椎動物のホルモン (特にカルシ
 トニン) の生理作用を研究している。

助手 鈴木信雄 (nobuo@kenroku.kanazawa-u.ac.jp)
 専攻 比較内分泌学
 内容 魚類 (円口類、軟骨魚類、硬骨魚類) のカル
 シウム代謝に関与するホルモンの構造と
 作用を主に遺伝子工学的手法を用いて解析
 している。最近では、ホルモンの構造解析に
 加え、レセプターcDNA の構造を決定し、
 様々な条件下におけるその発現を解析する
 ことにより、ホルモンの生理作用の多様性を
 調べている。

技術専門職員 又多政博 (matada@kenroku.kanazawa-u.ac.jp)

事務補佐員 曾良美智子 (msora@suzu.or.jp)

2. 学生

博士後期課程 2 年 [社会人特別選抜 : 石川県水産総合センター]
 戒田典久 (kaiser@nanao.nsk.ne.jp)

博士前期課程 1 年 小林大樹 (daiki@suzu2.suzu.or.jp)

学部学生 (4 年) 大嶋崇嗣 (tohshima@suzu.or.jp)

小木曾正造 (ogiso@suzu.or.jp)

【教育及び社会活動】

1. 実習

金沢大学担当

*生物学実習 4・5 (8月1日～7日) 3年生対象、17人受講
本年度は、動物の採集・分類に加えて海藻についても実習した。

講義：海藻の発生・分類について

(講師：石川県水産総合センター所長 田島迪生、
同センター 主任技師 池森貴彦)

*生物学演習 (12月8日～9日) 3年生対象、16人受講

*公開臨海実習 (8月19日～25日)

国立大学理学部 2～3年生対象、11人受講

講義：Diversity of Fish (講師：Srinakharinwirot 大学、タイ国、
Wichian Magtoon 先生)



Wichian Magtoon 先生の講義 (公開臨海実習：8月19日～25日)



公開臨海実習の様子 (8月19日～25日)

2. 社会教育活動

* 中学生向けプロジェクト『生物の理解：身近な魚の形態・生理・遺伝子まで』（10月13～14日）中学生対象、19人受講

10月13、14日、中学生を対象としたプロジェクト「生物の理解：身近な魚の形態・生理・遺伝子まで」が、理学部附属臨海実験所（珠洲郡内浦町）で開催され、地元の中学生17名が泊りかけで参加した。

笹山雄一所長・理学部教授による講



伝子についての講義の後、中学生はアジを解剖し、2日間にわたってDNA抽出の実験に取り組んだ。実験終了後には修了証が手渡された。

（右上の写真）講義する笹山所長・教授
＝臨海実験所で

月刊アカンサスニュース（金沢大学広報誌第62号）より

の中学生十七人がアジのDNA抽出実験などに取り組んだ。実験は、電子レンジやコーヒーフイーターなど、身近な器具を利用して行われた。生徒は、切り取ったアジの背側の筋肉をすりつぶし、薬剤を混ぜるなどして、白い糸状のDNAを取り出した。海が身近な内浦町の中学生も、魚に触れた経験が少なく、参加者は笹山雄一所長の説明に興味深げに聞き取っていた。

アジのDNAを抽出する生徒
＝内浦町小木



金大理学部
臨海実験所 内浦の中学生指導

アジのDNA抽出に挑戦
金大の中学生向けプロジェクト「生物の理解：身近な魚の形態・生理・遺伝子まで」は十三、十四日、内浦町小木の金大理学部附属臨海実験所で行われ、地元

北國新聞 10月16日掲載

- * 公開講座 (12 月 1 日～2 日) 一般社会人対象、6 人受講
実習：マシコヒゲムシのヘモグロビンをを用いた結晶化の試み
- 原理と応用 -
講義：なぜ蛋白の立体構造の研究は生命の解析に重要か！
(講師：金沢大学理学部 福森義宏教授)
体験披露：深海 6500 に搭乗して
- 船体の構造と深海にもぐる意義 - (笹山雄一教授)

12月1, 2日, 石川県内の中・高等学校教員を対象に, 公開講座「現代の生物学—バイオの時代に生きる—」が理学部附属臨海実験所で開催された。



月刊アカンサスニュース (金沢大学広報誌第 64 号) より

- * わくわく実験教室『遺伝子と海の動物』
(H14 年 3 月 27～28 日)
主催：財団法人 金沢子ども科学財団
小・中学生対象、24 人受講

金沢子ども科学財団の「わくわく実験教室」は二十七、二十八日、内浦町小木の金大理学部臨海実験所で開かれ、参加した児童らは DNA の抽出実験や講義などを通して科学に親しんだ。

金沢市内の小中学生二十四人が参加した。笹山雄一所長が遺伝子の仕組みについて説明した後、鶏肉から DNA を抽出する実験に取り組んだ。

子どもたちは、凍らせた鶏肉をすりつぶし、食塩水を加えた。ろ過した液体にアルコールを入れると、白い糸状の DNA が見え、歓声を上げた。

北國新聞 H14 年 3 月 31 日掲載